

陳述書

2024 年 10 月 15 日

氏名

現在、私は超低用量ピルを服用していますが、ピルには副作用が伴うため、私にとっては利用を継続する負担が大きいです。

例えば、ピルは、服用時間がずれるとすぐに不正出血を起こしてしまいます。医師からも、飲むタイミングが2時間程ずれてしまっただけで不正出血が起こると説明を受けました。

また、ピルの副作用で冷え性やむくみが治りにくく、私の仕事上、むくみは許されないため、仕事にも支障をきたしています。そのため、IUS（以下、「ミレーナ」と言います）を入れることも検討しましたが、麻酔が受けられない状況でミレーナを入れることに恐怖があり、まだミレーナを入れる決断をすることが出来ません。仮に麻酔下でミレーナを入れてもらうことが出来るとしても、ミレーナは5年ごとに取り出して新しいものと入れ替えなければならず、その度に産婦人科の健診を受けて、痛い思いをしたり、又は麻酔をしたり、不正出血を繰り返さなければならないのだと考えるとやり切れません。

加えて、ピルの処方を受けたり、ミレーナを入れたりするには、内診台に乗って医師の触診や分泌液の採取等の検査を受けなければなりません。産婦人科で内診を受けたことがある方なら理解して頂けると思いますが、内診台に乗って自分の意思に関係なく脚を強制的に開かれ、椅子部分が高く上がり、プライバシーを守る名目で仕切られているカーテンにより、医者に露出された下半身のみが差し出されるのは本当に涙が出る程嫌で、内診台に乗ると考えただけでも吐き気がするほどです。

今後、ピル又はミレーナによる避妊を続けるということは、処方を受け続ける間、何度も内診台に乗って検査を受け続けなければならないということを意味します。それは私にとって耐えがたい苦痛です。

今後も絶対に妊娠しないことを希望している私にとって、永続的な効果がある不妊手術の方が、精神的にも肉体的にも圧倒的に有利であり、私が望んでいるのに禁止される理由が理解できません。

以上